

件名

令和4年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果及び結果の活用について

提出理由

令和4年5月に実施した埼玉県学力・学習状況調査の結果及び結果の活用について、別紙のとおり報告します。

概要

- 1 調査の目的・特徴
- 2 調査の概要
- 3 「学力のレベル」と「学力の伸び」について
- 4 調査結果
 - (1) 「学力のレベル」の経年変化
 - (2) 学力が伸びた児童生徒の割合
 - (3) 児童生徒質問紙調査による分析
 - (4) 全国学力・学習状況調査における質問紙調査の結果（参考）
- 5 調査結果を活用した学力向上施策について
 - (1) 県の取組
 - (2) 主な施策
 - (3) 効果的な取組例
- 6 今後の埼玉県学力・学習状況調査

（義務教育指導課）

令和4年度

埼玉県学力・学習状況調査の結果 及び結果の活用について

埼玉県学力学習状況調査



1 調査の目的・特徴

(1) 目的	本県の児童生徒の学力や学習に関する事項を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。
(2) 特徴	「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という視点に「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか（学力の経年変化）」という視点を加えている。 ⇒「学力の伸び」が把握できる。

2 調査の概要

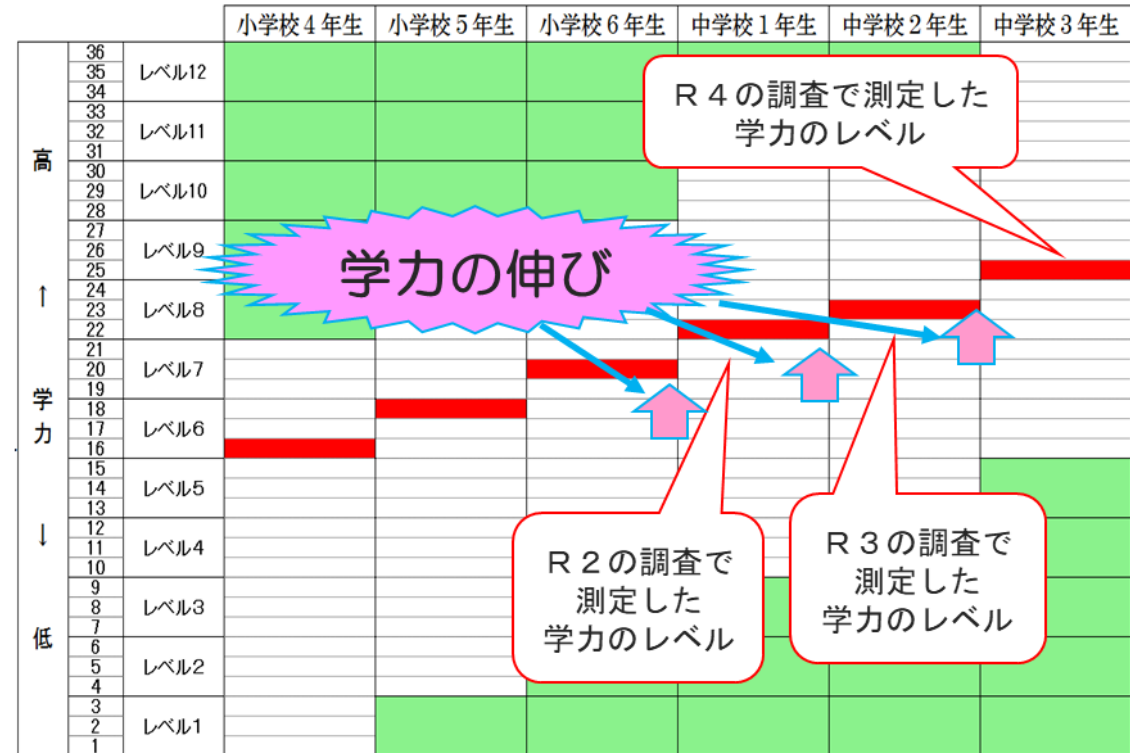
(1) 調査開始	平成27年度から（毎年度実施で今年度8回目）
(2) 実施期間	令和4年5月9日（月）～5月18日（水）
(3) 調査 児童生徒数	県内の市町村立小・中学校等（さいたま市を除く）に在籍する小学校第4学年から中学校第3学年の全児童生徒（全市町村が参加）
	1,047校 〔小学校 693校 中学校 353校 義務教育学校 1校〕
	274,326人 〔小学校 140,523人 中学校 133,682人 義務教育学校 121人〕
(4) 調査事項	<p>ア 児童生徒に対する調査</p> <p>（ア）教科に関する調査</p> <p>小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数</p> <p>中学校第1学年 国語、数学</p> <p>中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語</p> <p>・出題数は、各学年26～35題（出題形式は選択式・短答式・記述式）</p> <p>（イ）質問紙調査</p> <p>学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項（質問数は、学年により98～110項目）</p> <p>イ 学校及び市町村教育委員会に対する調査</p> <p>学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項</p>

3 「学力のレベル」と「学力の伸び」について

※ 本調査では、学力を「学力のレベル」として提示している。
 → 小学校第4学年から中学校第3学年までの全ての問題に
 難易度を設定することで、学力のレベルを測定している。

- 本調査における「学力のレベル」の考え方
 - ・ 「どのくらい難しい問題を解く力があるか。」を学力のレベルで表している。レベルが上がるほど、難易度の高い問題を解く力がある。
- 本調査における「学力の伸び」の考え方
 - ・ 年度間の「学力のレベルの差」を学力の伸びと捉える。

○ 学力のレベルは、36段階（12レベル×3層）で設定しています。



4 調査結果

(1) 「学力のレベル」の経年変化（平成29年度から令和4年度の6年間）

- どの学年も過去の同学年と同等のレベルに達している。
- ほぼ全ての学年・教科で、学年が上がるごとに着実な「学力の伸び」が見られる。

国語

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3	16 → 18 → 20 → 22 → 23 → 25					
現中2	16 → 17 → 20 → 22 → 23					
現中1	15 → 18 → 20 → 22					
現小6	17 → 18 → 21					
現小5	18 → 18					
現小4	16					

縦に見ることで、どの学年もほぼ同様のレベルに達していることが分かる。

算数・数学

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3	14 → 16 → 18 → 20 → 22 → 24					
現中2	14 → 17 → 18 → 20 → 22					
現中1	14 → 16 → 19 → 20					
現小6	14 → 17 → 18					
現小5	15 → 16					
現小4	14					

横に見ることで、毎年度どの学年も着実に学力が伸びていることが分かる。

英語

学年	中2	中3
現中3	26 → 29	
現中2	26	
現中1		
現小6		
現小5		
現小4		

⇒ 今年度の数値

⇒ 今年度の数値

⇒ 今年度の数値

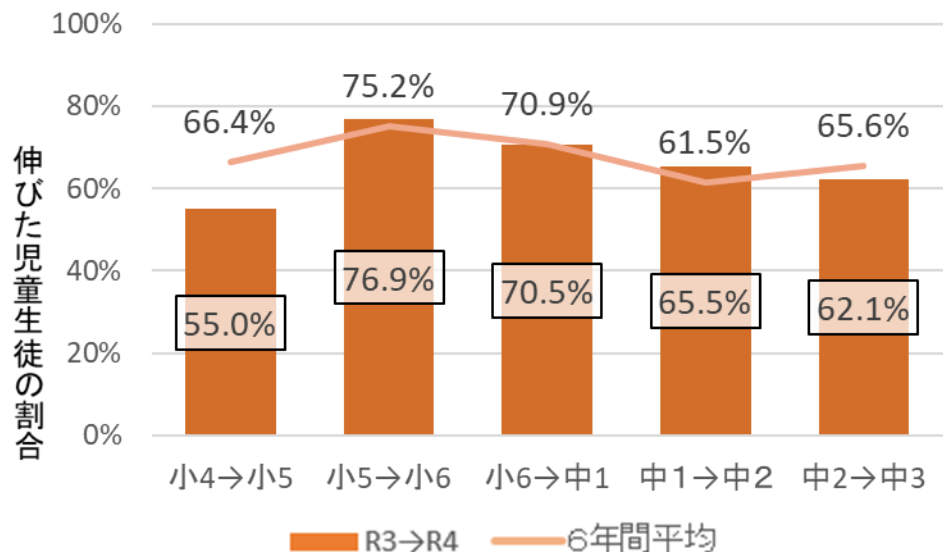
※ 学力のレベルは、36段階（12レベル×3層）で設定している。

4 調査結果

(2) 学力が伸びた児童生徒の割合（令和4年度の結果と平成29年度からの6年間の平均との比較）

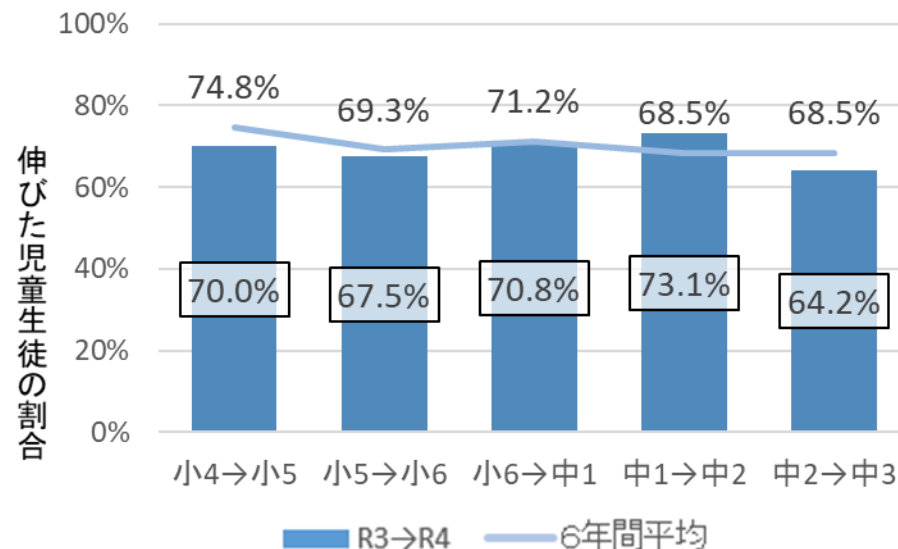
【国語】

- 約6～8割の児童生徒の学力が伸びている。
- 過去6年間の平均と比べて、中学校第2学年の学力が伸びた生徒の割合は多い。
一方、小学校第5学年の学力が伸びた児童の割合は少なくなっている。



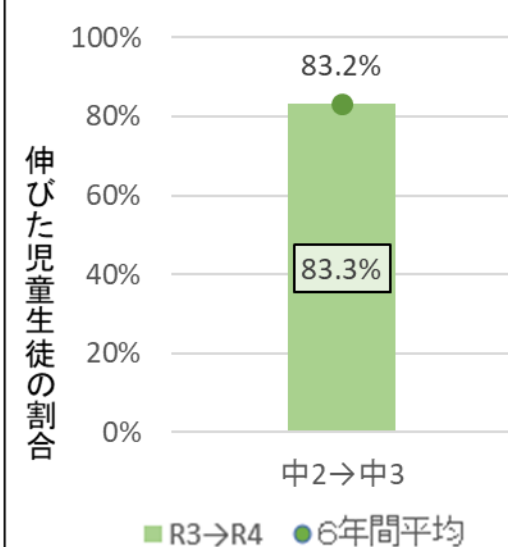
【算数・数学】

- 約6、7割の児童生徒の学力が伸びている。
- 過去6年間の平均と比べて、中学校第2学年の伸びた生徒の割合は多い。
一方、中学校第3年生の学力が伸びた生徒の割合は少なくなっている。



【英語】

- 過去6年間の平均と同様に、約8割の生徒の学力が伸びている。

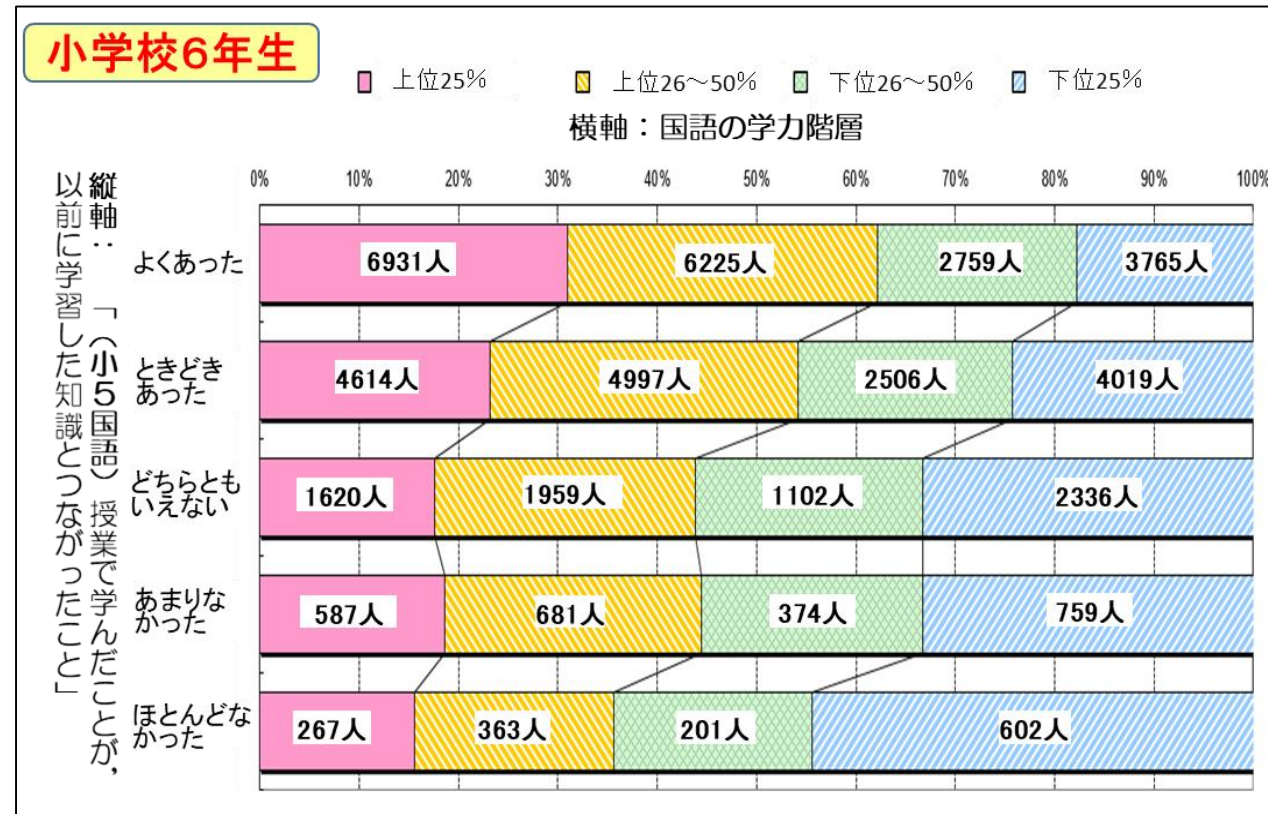
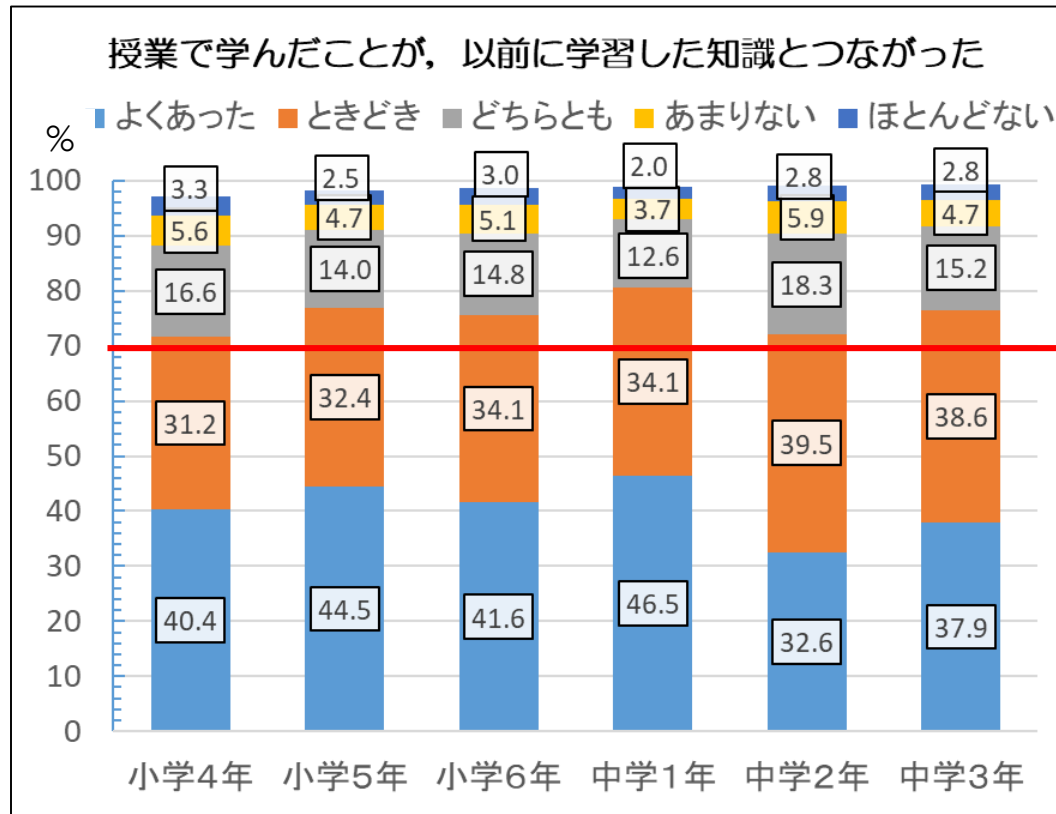


4 調査結果

(3) 児童生徒質問紙調査による分析

ア 主体的・対話的で深い学びと学力の関係

- 約7割の児童生徒が授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがあると回答している。
- 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことが「よくあった」「ときどきあった」児童生徒ほど、学力が高い傾向がある。

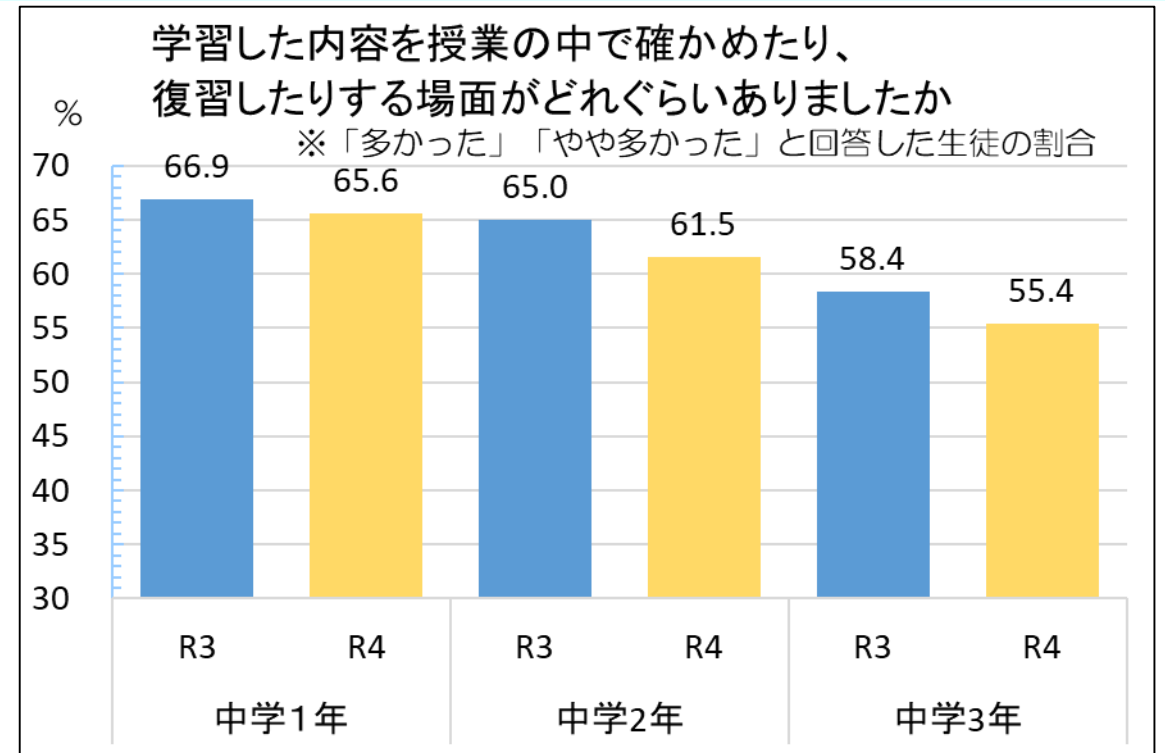
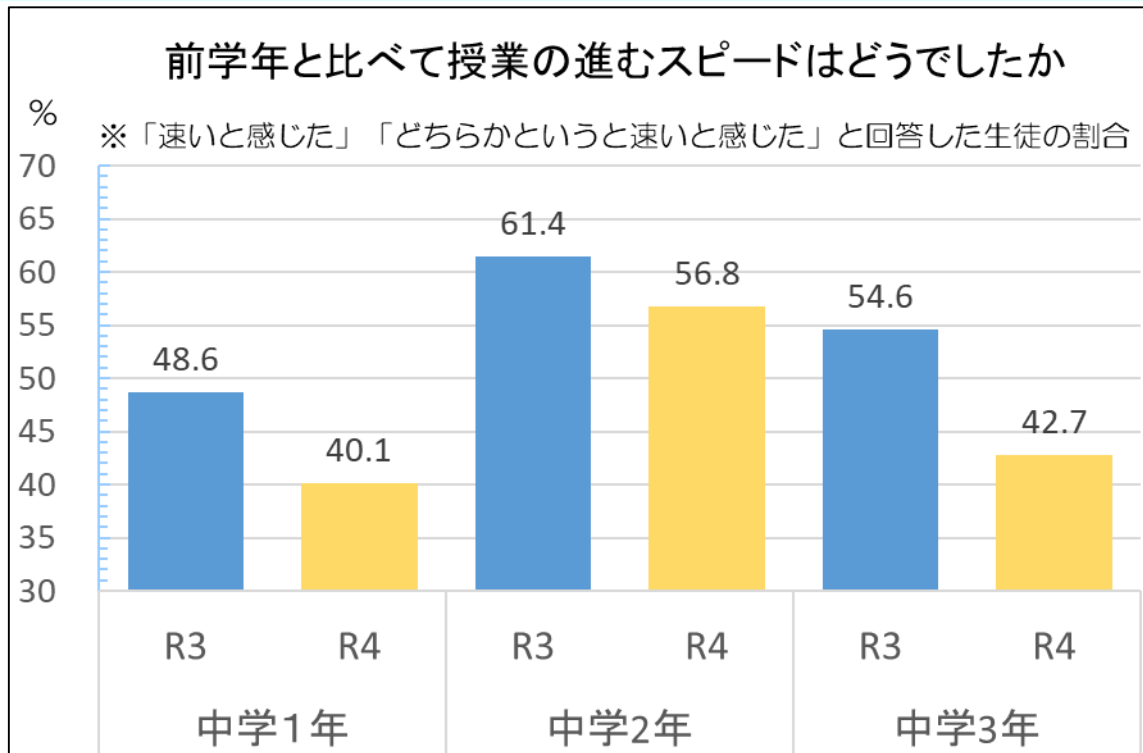


4 調査結果

(3) 児童生徒質問紙調査による分析

イ コロナ禍における授業の工夫

- 前学年と比べて、授業の進むスピードが「速いと感じた」「どちらかという速いと感じた」と回答した生徒が減少していることから、コロナ禍前の授業進度に戻りつつあることがうかがえる。
- 「学習した内容を授業の中で確かめたり、復習したりする場面がどれぐらいありましたか」という問いに対して、「多かった」「やや多かった」と認識している生徒の割合は高い傾向を維持している。

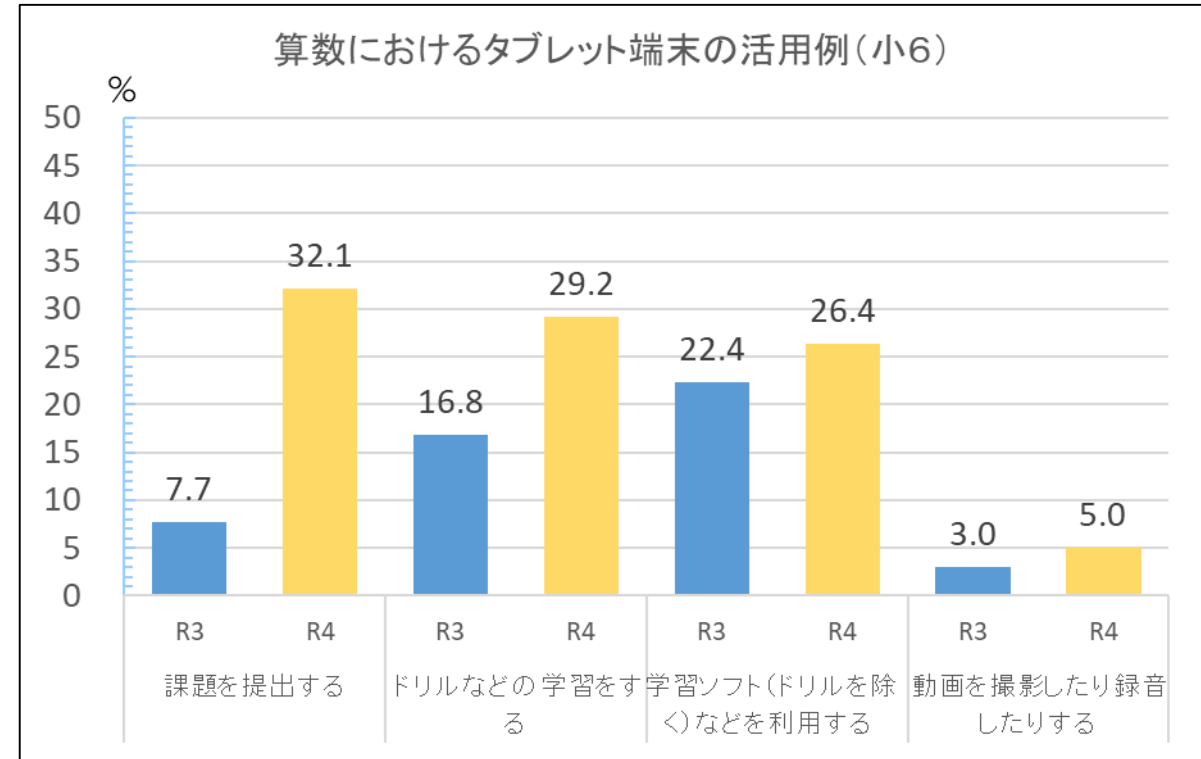
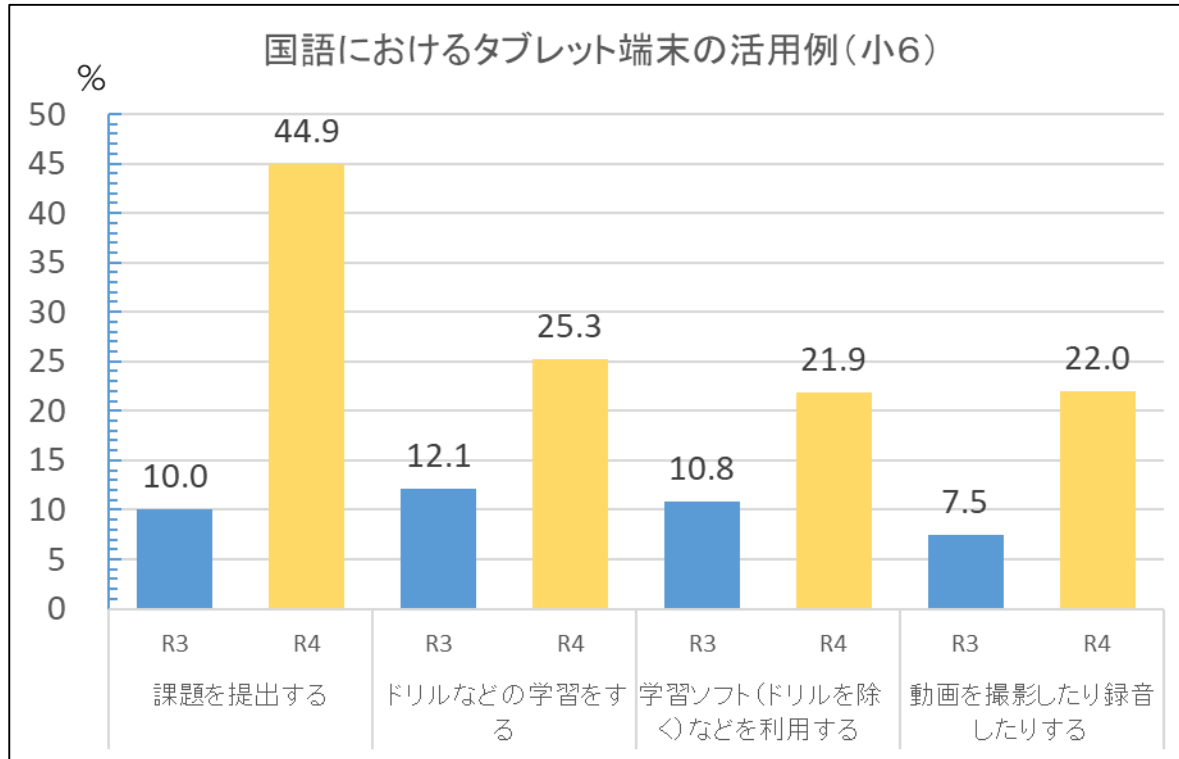


4 調査結果

(3) 児童生徒質問紙調査による分析

ウ タブレット端末の活用

- 前年度と比べて、授業中にタブレット端末を活用する機会が増えている。
- 特に小学校6年生の国語では、タブレット端末を通して課題を提出したり、ドリルなどの学習をしたりする活用法のほか、動画を撮影したり録音したりする活用法が昨年度に比べて大きく伸びている。
- 算数についても、課題を提出したり、ドリルなどの学習をしたりする活用法が昨年度に比べて大きく伸びている。



4 調査結果

(4) 全国学力・学習状況調査における質問紙調査の結果（参考）

ア 児童生徒質問紙

全国と比べて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組や、良好な学級経営に向けた取組が進んでいることがうかがえる。

※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答を合わせた値（単位：％）

質問事項	小学校		中学校	
	埼玉県	全国	埼玉県	全国
前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。	69.9	65.4	68.6	63.3
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会等で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。	79.7	73.5	82.8	76.8

イ 学校質問紙

全国と県の学力調査結果を併せて分析し、教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているという回答した学校の割合が全国に比べ高い。

※「よく行っている」「どちらかといえば行っている」と回答した値（単位：％）

質問事項	小学校		中学校	
	埼玉県	全国	埼玉県	全国
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。	96.2	91.7	92.7	88.5

5 調査結果を活用した学力向上施策について

(1) 県の取組

埼玉県

総合的な支援

- ・各市町村・学校における取組共有の促進
- ・調査データの分析結果の普及
- ・効果的な取組を県内で広く共有

重点的な支援

- ・特に支援が必要な市町村・学校への対応
- ・特に学習のつまづきが見られる学年・教科等への対応

施策名

良い授業を見つけ！広めて！学力UP事業

AIを活用した学びの実践研究事業

学力向上推進協議会

県学調活用研修事業

市町村

学校



施策名

「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業

県学調の結果に基づく市町村や学校に対する支援

学力向上研究校指定事業

学力向上プロジェクト教員の配置

児童生徒一人一人の学力向上

5 調査結果を活用した学力向上施策について

(2) 主な施策

	施策名	事業コンセプト	成果
総合的な支援	良い授業を見つけ！ 広めて！学力UP事業	県学調の結果から学力を伸ばしている教員の解説付きの映像資料を作成し、学力向上に効果的な授業等のノウハウを共有・普及する。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度までに、国語、算数・数学、英語、特別活動等、計45本の映像資料を作成・配信 映像資料は約34,300回（令和4年9月末現在）視聴され、活用した学校はしていない学校と比較して、学力を伸ばした学校の割合が高い
	AIを活用した 学びの実践研究事業	県学調の結果とAIを活用し、児童生徒一人一人に応じた指導及び最適な学びを実現する。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒向けの個々の学習のつまずきや生活習慣等に関するアドバイスを提示する個別アドバイスシート等の作成 個別アドバイスシート等の活用前後で、平均してほぼ全ての学習方略の向上
重点的な支援	「未来を生き抜く人財育成」 学力保障スクラム事業	家庭の経済状況などから学力に課題を抱える小学校4・5年生の児童に対する教育的支援の方法を実施校で研究する。 【実施校：10校（令和3年度）】	<ul style="list-style-type: none"> 児童の自己効力感の高まりや学習意欲の向上 学力が伸びた児童の割合が県平均の伸び率を超えた学校が半数以上
	県学調の結果に基づく 市町村や学校に対する支援	前年度の県学調で「学力が伸びた児童生徒の割合」が県平均を下回るなどの状況にある市町村や小・中学校を重点的に支援する。 【実施市町村：5市町 実施校：18校（令和3年度）】	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の学習意欲の向上 学力が伸びた児童生徒の割合が県平均の伸び率を超えた学校が約半数

5 調査結果を活用した学力向上施策について

(3) 効果的な取組例

【授業改善】

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、市町村独自の授業のスタンダード（1時間の授業の流れ等）を作成、配布 ⇒**教員の指導力の向上、若手教員等の授業改善の指針**
- 小学校において、専門性の高い教員が学年を越えてその教科の指導を実施 ⇒**学びの質の向上、系統性をより重視した指導**
- 各学校で実施される授業研究会を他の学校の教員でも参加できるように、市町村全体で授業改善に向けての研修の促進 ⇒**学校間交流の活性化、教員が相互に学び合える環境の構築**

【家庭と連携した学習支援】

- 家庭学習の手引等を作成し、質的・量的の両面から家庭学習を充実 ⇒**子供の学ぶ環境づくり**

【各市町村教育委員会による各学校への指導・助言】

- 各市町村教育委員会が各学校へ訪問、県学力・学習状況調査の結果分析をきめ細かくサポート
- 学力を伸ばしている教員の良い取組を、会議などで積極的に紹介・共有・実施 ⇒**教員の経験と調査結果に基づく指導、多面的な見方による指導**

6 今後の埼玉県学力・学習状況調査

- 児童生徒の学びの状況を詳細に把握し、教員の指導方法の工夫・改善や児童生徒一人一人の更なる学力向上につなげていくことを目的として、本調査のC B T（※）化を目指す。

※C B T…Computer Based Testingの略で、コンピューターを使用して実施する調査。

(1) C B T化の主なメリット

- ・ 正誤の状況に加えて解答時間も分析することで児童生徒のつまずきを把握し、より細かな指導が可能

(分析例)

- ・ 正誤の状況と解答時間をかけた問題の分野から、つまずいている分野の明確化



個別指導が可能となり、
学習支援が必要な児童生徒を早期に発見することにつながる。

- ・ C B Tの特性を生かした問題として、映像を活用して、より実際の学習場面に即した出題が可能

動画を見ながら解く問題のイメージ

国語

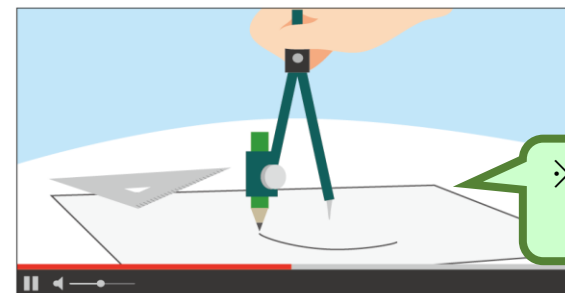
問2 下の動画を見て、問題に答えましょう。



※吹き出しを使用して会話や話し合い等を動画で再現します。

算数

問1 下の動画を見て、問題に答えましょう。



※作図する様子を動画で示します。

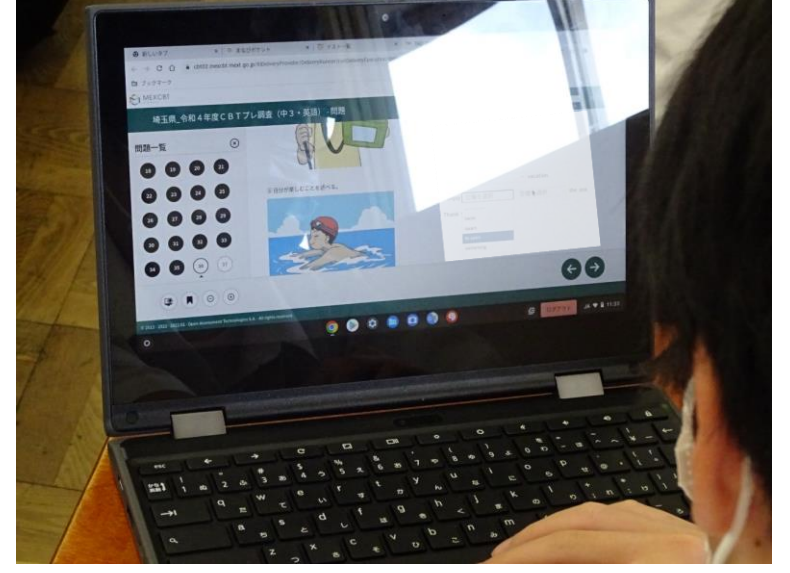
(2) CBT化に向けた令和4年度の主な取組

ア 接続確認調査

- ①目的：令和6年度の埼玉県学力・学習状況調査のCBT化に向けて、通信環境を確認
- ②調査対象：県内全市町村・全小・中学校等

イ CBTプレ調査

- ①目的：令和5年度のCBT実施に向けて、市町村単位で検証
- ②調査対象：蕨市全校（小学校7校・中学校3校）



(3) 今後のスケジュール

令和5年度：一部CBTで実施 令和6年度：全校CBTで実施を目指す

(4) キャッチフレーズ 「タップで実感 アップでスマイル」 （令和4年度 募集により決定）

